

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 5月 15日現在

機関番号：14503

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21530985

研究課題名（和文）ウェブ教科書の開発と活用に関する実践研究

—伝統と文化に関する内容に基づいて—

研究課題名（英文）Practice research on development and practical use of a web textbook

-Based on the contents about tradition and culture-

研究代表者：中村 哲 （ NAKAMURA TETSU ）

研究者番号：40091813

研究成果の概要（和文）：

本研究ではこれまでの印刷メディア形態としての教科書を、これからのマルチメディア形態としてウェブ教科書を日本の伝統と文化に基づいて開発している。その為、次の4研究段階を踏まえて実施された。(1) 現行の小学校と中学校の社会科教科書の構成を検討する。(2) 新学習指導要領に基づく新教科書の構成案を提示する。(3) インターネットの機能を活用してマルチメディア形態としてのウェブ教科書の未来モデルを開発する。(4) ウェブ教科書の活用を評価する。

研究成果の概要（英文）：

In this research, the web textbook is developed for the textbook based on Japanese tradition and culture as a future multimedia form. Therefore, it was carried out based on the following four research stage. (1) To examine the composition of social studies textbooks of the current elementary and junior high school. (2) To present the proposal composition of the new textbook based on the new course of study. (3) To develop a model of the future of the textbook as a web textbook by taking advantage of the Internet. (4) To evaluate the use of the web textbook.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2010年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2011年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総計	2,800,000	840,000	3,640,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教科教育学

キーワード：教材開発

1. 研究開始当初の背景

我が国の学校教育において使用されている教科書は、学習指導要領の改訂に対応して、編集されている。小学校では平成 23 年度、中学校では平成 24 年度から使用される各教科書も、平成 20 年の学習指導要領の改訂趣旨に基づいて編集され、文部科学省の検定を受け、各地域の教育委員会において採択が決められている。このように児童・生徒が教科書を活用するまでに教育行政の制度的指導関与がなされている教科書を、学習主体である児童・生徒の学習的関与の観点から改善する。そして、これまでの印刷メディア形態としての教科書の改善を意図し、これからのマルチメディア形態としての教科書の未来モデルとしてウェブ教科書を国際理解に関する内容として日本の文化に基づいて開発する。

2. 研究の目的

本研究の目的としては、次の 4 事項である。

(1) 現行教科書の構成を検討する。現在使用される小学校と中学校の社会科教科書をてがかりに構成形態と構成内容の 2 側面から検討し、児童・生徒の学習的関与の観点から小学校と中学校の社会科教科書自体の構成上の問題を指摘する。

(2) 新教科書の構成案を提示する。小学校と中学校の社会科教科書自体の構成上の問題を改革するために、印刷メディア形態としての社会科教科書の改善モデル案を提示する。

(3) 教科書の未来モデルを開発する。印刷メディア形態としての小学校と中学校の社会科教科書の改善案を提示するだけでなく、イ

ンターネットの機能を活用してマルチメディア形態としての未来のウェブ教科書モデルを開発する。そして、国内では東広島市と島田市、外国では米国、中国、韓国の研究者と学校教師の協力を得て国際理解を図る文化内容に関するウェブ教科書を活用する。

(4) ウェブ教科書の活用を評価する。開発したウェブ教科書の活用を試み、ウェブ教科書自体の構成と活用の効果について評価する。

3. 研究の方法

研究を遂行するために、次の 5 つの時期区分に基づいて実施した。

(1) 平成 21 年 4 月～10 月 教科書関連資料
収集調査及び検討を実施する時期

この期間においては、主にアメリカ、中国、韓国などの社会科教科書の収集、社会科関連ウェブページの調査、現行小学校社会科教科書のテキスト内容と図表等の資料構成の調査と検討を行う。特に、アメリカ社会科教科書としては、Silver Burdett Ginn Social Studies 社、Scott Foresman 社、Harcourt 社等の児童用教科書と教師用指導書、中国では人民教育出版社の教科書、韓国では大韓教科書を購入する。わが国の小学校と中学校の社会科教科書については既に収集している。収集した教科書のテキスト内容と資料構成を調査する。また、社会科関連ウェブページのコンテンツも調査する。その際には、大学院生の調査協力を得る。さらに、教科書研究センターと国立教育政策研究所の訪問調査をする。これらの調査結果を踏まえて学習用教科書としてのテキスト内容と資料構成の基本的視点を検討する。

(2)平成 21 年 11 月～平成 22 年 3 月 新教科書の構成案とウェブ教科書の計画案作成する時期

この期間においては、社会科関連資料収集調査及び検討の結果を踏まえて、特に新指導要領の内容との関連を視野に小学校と中学校社会科の構成案とウェブ教科書の単元モデル開発の計画案を作成する。社会科の新指導要領の対応教科書とウェブ教科書の単元モデルとしては、3・4年生の地域学習、5年生の国土と産業学習、6年生の歴史学習の中からひとつの単元を抽出する。また、中学校では地理・歴史・公民の分野の中から単元を選択する。国内の小中教員との共同研究会を兵庫教育大学において開催する。共同研究開催後、研究協力者が担当単元の開発作業に着手する。なお、開発作業補助者として大学院生の協力を得る。また、開発作業の過程においてはインターネット機能を活用して研究代表者、研究協力者、開発作業補助者は共同的に作業を進める。

(3)平成 22 年 4 月～平成 23 年 3 月 新教科書とウェブ教科書を開発をする時期

この期間においては、新教科書の構成案及びウェブ教科書の計画案を踏まえて、特に新指導要領の内容との関連を視野に小学校と中学校社会科の新教科書とウェブ教科書の単元モデル開発の作業をする。これらの単元を開発するための構成形態と構成内容に関しては、認知心理学の認知構造論に依拠した次のような視点を踏まえる。構成形態としては、「1. 表現文書と映像及びグラフ等の資料などの配置・配列」「2. 表現文書と映像及びグラフ等の資料との関連」「3. 文書内容の表現形式」「4. 資料などの構成形式」の4視点である。また、構成内容としては、「1. コア内容ノードの設定」「2. 各内容

ノードの多様な関連」「3. 内容ノードと関連する方法ノードの設定」「4. 他の内容ノードへの発展」の4視点である。開発の過程において共同研究会を実施し、開発する新教科書とウェブ教科書の内容を検討する。また、海外の研究者と教員とも開発内容について検討を図る。

(4)平成 23 年 4 月～10 月 新教科書とウェブ教科書の改善と実験的に活用する時期

この期間においては、開発した社会科の新教科書とウェブ教科書の実験的活用を図り、改善事項を検討する。そして、再び開発作業を行い、小学生の協力を得て、試案的に活用を継続する。特にウェブ教科書については国内外の社会科教育関係者の評価意見を参考にし、社会科ウェブ教科書の改善をする。改善を図ったウェブ教科書を公開し、各協力者の勤務校及び地域の小学校の協力を得て、児童たちによる実験的活用を実施する。そして、その目的としては、児童が活用する社会科ウェブ教科書の全体構成と各ページ構成についての評価、児童同志や教師及び他の人たちとの協同学習を可能とする学習ベースページの利用の意義と問題点を解明するところにある。なお、実験的活用を観察するために東広島市と島田市を訪問する。

(5)平成 23 年 11 月～平成 24 年 3 月 開発研究の成果を作成する時期

この期間においては、開発社会科の新教科書とウェブ教科書の内容と構成、活用結果、研究意義に関する報告書の作成を行う。これまでの本研究の研究内容を「小学校社会科教科書の構成と課題」「小学校社会科ウェブ教科書の性格と開発方法」「小学校社会科ウェブ教科書の全体構成と開発単元の構成」「小学校社会科ウェブ教科書の活用実験」に関す

る基本的項目に基づいて特にウェブ教科書に焦点づけて研究成果を、学会誌等において発表する。

4. 研究成果

平成21年度では、本研究の目的を踏まえて、教科書関連資料収集及び検討をすること、新教科書の構成案とウェブ教科書の計画案を検討することを年度の目標として次のように研究を推進した。前者の目標に対しては、アメリカと中国の社会科教科書の収集をした。そして、中国の教科書において伝統と文化に関する取り扱いを調査した。また、社会科関連ウェブページの調査も実施した。さらに、日本の現行小学校社会科教科書のテキスト内容と図表等の資料構成に関する概査を行った。このような文献資料の研究と並行して、東広島市、島田市、東京都において「伝統・文化」に関する教育の研究モデル校を訪問し、授業等の様子を撮影した。

後者の目標に対しては、特に新指導要領の内容との関連を視野に小学校と中学校社会科の構成案ウェブ教科書の単元モデル開発の計画案を検討した。特に、静岡県島田市においては伝統と文化に関する教育の全国大会が企画され、地域でのカリキュラムと授業実践の研究交流を実施した。これらの研究成果は、本研究を推進する上で重要な情報になっている。平成21年度では本研究の第1年目であるので、関連資料集と計画案の検討を行い、本研究の基盤構築に関する研究成果を得たのである。

平成22年度では、本研究の目的を踏まえて、これまでの教科書関連資料収集及び検討をすること、新教科書の構成案とウェブ教科書の計画案を検討することを踏まえて、国内外における授業実践の調査とウェブ教科書の試案的開発をすることを年度の目標として次のように研究を推進した。

前者の目標に対しては、国内では北海道、東京都、静岡県を中心に授業実践と教材開発の資料収集を行った。国外では中国とフランスにおける伝統文化教育の授業実践と教材開発の資料収集を行った。特に、蕎麦、茶、武道、伝統行事に関する教材の汎用性と日本の伝統技術の国際性を焦点にして授業事例と教材開発の資料を収集できたこと、さらに各地域での教育者と専門家との支援関係ができた。これらのことは日本の伝統文化に関する教材の国際性を再認識するウェブ教科書の開発に重要な手がかりとなった。

後者の目標に対しては、これまでの先行研究を検討し、小学校と中学校社会科の構成案ウェブ教科書の単元モデル開発の計画案を検討すると共に、ウェブ構成の技術的協力を得て伝統文化教育に関連するウェブページとウェブデータベースの開発を試みた。これらの試みが来年度のウェブ教科書開発の先行研究ともなり、ウェブ開発専門家との研究連携が得られた。

平成23年度は本研究における最終年度であるので、「1. 現行教科書の構成を検討する。2. 新教科書の構成案を提示する。3. 教科書の未来モデルを開発する。4. ウェブ教科書の活用を評価する。」の4目的を踏まえて、これまでの研究成果を検討しながら研究を推進した。

「1. 現行教科書の構成を検討する。」に関しては、昨年度実施された新学習指導要領に基づく社会科教科書を収集し、伝統と文化に関する内容を再検討した。また、中学校社会科では教科書編集に協力をしているA社の新教科書を再検討した。「2. 新教科書の構成案を提示する。」では小学校社会科の教科書を参考に、島田市と宇和市における教諭の協力を得て、印刷メディア形態としての社会科教科書の改善モデル案を提示した。「3. 教

科書の未来モデルを開発する。」ではインターネットの機能を活用してマルチメディア形態としての未来のウェブ教科書モデルを試行的に開発した。「4. ウェブ教科書の活用を評価する。」では開発したウェブ教科書の活用を試み、ウェブ教科書自体の構成と活用の効果について評価することが意図されたのであるが、諸事情から実験的活用が十分に実施できなかった。なお、研究的基盤になる伝統と文化に関するウェブデータベースの開発と利用は公開をしている。

このような研究の成果については、国内外での研究発表機会と出版社の著作物を活用して公表している。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 10 件)

- ① 中村 哲、「伝統と文化」に関する教育に基づく授業実践の新動向と特色、安部崇慶・中村哲編著『「伝統と文化」に関する教育課程の編成と授業実践』、風間書房、2012、pp. 16-32
- ② 中村 哲、「伝統と文化」に関する教育実践WEBデータベースの構成と意義、安部崇慶・中村哲編著『「伝統と文化」に関する教育課程の編成と授業実践』、『「伝統と文化」に関する教育課程の編成と授業実践』中村 哲、伝統と文化に関する教育の動向と意義、「日本教育」、日本教育会、2012 pp. 1-4
- ③ 中村 哲、武道教育の意義と展望、國學院大学人間開発学会、人間開発学研究、第3号、2012、pp. 27-36
- ④ 中村 哲、武道における<こころ>の鍛錬と武道教育の意義、『教育フォーラム<こころ>を育てる』、金子書房、No. 47、2011、pp. 70-80
- ⑤ 中村 哲、豊かな心をはぐくむ伝統と文化に関する教育活動、『兵庫教育』、兵庫県教育委員会、No. 720、2011、pp. 4-9
- ⑥ 中村 哲、和文化教育の動向と特色—東広島市、島田市、東京都の先進的取り組みを手がかりに—、『社会系諸科学の探究』、法律文化社、2010、pp. 89-101

- ⑦ 中村 哲、伝統文化教育の性格と教育実践、『国語科教育』明治図書、No. 717、2010、pp. 28-30
- ⑧ 中村 哲、伝統や文化に関する教育をどう充実させるか、『月刊高校教育』、学事出版、2009、pp. 28-31
- ⑨ 中村 哲、伝統と文化に関する教育、加藤幸次、明石要一、『小学校の社会科を読み解く』、日本文教出版、2009 pp. 22-27

[学会発表] (計 8 件)

- ① 中村 哲、地域社会の復興と創造をめざす和文化的再発見、和文化教育研究交流協会第8回全国大会シンポジウム、2012年1月7日、関西学院大学教育学部
- ② 中村 哲、これからの和文化教育の可能性をさぐる、和文化教育研究交流協会第7回全国大会シンポジウム、2011年11月2日、東広島市立志和中学校
- ③ 中村 哲、社会的危機状況における和文化教育の意義—天空に向けて舞い揚げよう「鯉のぼり」活動—、教育方法学会第47回全国大会、2011年10月1日、秋田大学教育文化学部
- ④ 中村 哲、伝統・文化に関する教育の動向と意義、スポーツ人類学会シンポジウム、2011年9月25日、鹿屋体育大学
- ⑤ 中村 哲、現代を潤す江戸文化の彩り、和文化教育研究交流協会第6回全国大会自由研究発表、2010年10月30日、江戸東京博物館
- ⑥ 中村 哲、基調講演「グローバリズムとナショナリズムの狭間における文化アイデンティティ形成」、韓国芸術教育2010年研究大会、2010年8月4日、韓国京仁教育大学
- ⑦ 中村 哲、韓日の伝統文化教育の動向と展望、全州教育大学初等教育研究院研究発表大会 2010年1月6日、韓国全州教育大学
- ⑧ 中村 哲、和文化教育の広がりや深まり、和文化教育研究交流協会第5回全国大会シンポジウム、2009年10月30日、島田市総合施設プラザおおるり

[図書] (計 2 件)

- ① 安部崇慶・中村 哲編著、「伝統と文化」に関する教育課程の編成と授業実践、風間書房、2012、pp. 1-263
- ② 中村 哲編著、伝統や文化に関する教育

の充実、教育開発研究所、2009、

pp. 1-229

〔産業財産権〕

○出願状況（計0件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

○取得状況（計0件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

伝統と文化（和文化）教育実践WEBデータベース

<http://28.pro.tok2.com/~hyogoshakai/wa/index.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

中村 哲 (NAKAMURA TETSU)

研究者番号：40091813

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：